平成 27 年度 定年退職教員送別懇談会

2016年(平成28)3月15日(火)東工大蔵前会館くらまえホール



2016年3月15日(火)に"くらまえホール"で定年退職教員送別懇談会が開かれ、懇談に先立ち、学長の挨拶、記念品贈呈、定年退職教員の挨拶がありました。司会は、小田原修送別懇談会発起人が務めました。退職予定の25名のうち、18名の先生方及び退職ないしは退職予定の理事・副学長2名、合わせて20名にご出席いただき、お一人約3分で思いを語っていただきました。概要を以下に記します。

文責:博物館資史料館部門 広瀬茂久 写真:総務部 総務課 & 広報·社会連携課



三島良直 学長

先ずは おめでとうございます。私は昭和 44 年 (1969) の入学ですので、本学出身の先生方とは、色々なところで ご一緒させて頂き世話になりました。同期の桜として感慨深いものがあります。長い間教育研究において献身的なご努力をしていただき有難うございました。これからも、健康に気を付けて、色々なところでご活躍され東工大の名を高めて頂ければと思います。今日は急用が入って、どうしても途中で抜けなければなりませんが、用事が済み次第 戻ってきますのでお許しください。後半の懇談の部では、お酒を酌み交わしながら忌憚のないお話を伺えればと思います。



垣本 史雄(基礎物理学専攻)

名簿の最初に私の名前があるのを見た時のいやな 予感が的中して,一番バッターに指名されました。 後の方々にプレッシャーにならないように一番手 を務めさせていただきます。三島学長と同じ44 年入学です。修士課程を終えてすぐ助手になりま したので、本学での教員生活は41年間にも及び ます。恐らく最長不倒記録でしょう。学生時代か ら数えると47年間、約半世紀もの間この大岡山 に通いつめ、宇宙線の研究をしたことになります。 入学したのは大学の混乱期で入学式はなく, その うえ学部も大学院も卒業式に出ていないので、最 後の今回ぐらいは出て、きっちりしてやめようと 思った次第です。大綱化・重点化・法人化などの 変革を経験しましたが、4月からは更に大きな教 育改革等が実施に移されます。これらの改革がい い方向に向かい、実を結ぶことを願っています。



旭 耕一郎(基礎物理学専攻)

1990年から26年間,教育研究に携わらせてい ただきました。この間、物理学科と応用物理学科 が合体して物理学科になり、専攻も新しい形(基 礎物理学専攻と物性物理学専攻) になりました。 このような変革(大学院重点化)に引き続き、今 まさに教育改革が進行中で、激動の中に身を置 くとともに、まさに節目の年に私自身のキャリ アも節目の年を迎えたことには感慨深いものが あります。社会情勢もめまぐるしく変化しまし た。そんな中でも充実した日々を過ごせたのは、 (i) 研究の最先端で活躍し、教育にも真摯に取り 組む一流の同僚と(ii) 基礎力がしっかりしてお り、最小限のアドバイスですむ学生たちに恵まれ たからで, 感謝しています。研究は国際共同研究 の色彩が強かったので、学生を外国(University of Göttingen, GSI Helmholtz Centre for Heavy Ion Research GmbH など)に連れて行くことや外国 の研究者が訪ねて来ることが多かったのですが、 そんな経験・機会を通して逞しく育っていく学生 たちと一緒に過ごせたのは幸せ. かつ遣り甲斐の あることでした。



小河 利行(建築学専攻)

私も垣本先生と同じように 47 年間, ほぼ半世紀 もここで過ごさせていただきました。退職された 先輩を含めて東工大の皆様方に感謝しています。 研究室を運営したのは 30 年間ですが, この間 毎 年 3 人程度の学生を受け入れ, 合計 100 名程の 学生と一緒に研究をしてきました。優秀な学生と 一緒に今日まで研究できたのは幸せでした。来年 度からは教育改革が始まりますので, 大学がます ます発展し, 学生と教員が自由にのびのびと勉学・ 研究できる場になりますよう願っています。



大即 信明(国際開発工学専攻)

名前を正確に読んでいただき有難うございます。前の 小河先生とは名前が読みにくい同士の上に, 小河先生 の誕生日が今日(3/15)で、私の誕生日が1週間前 (3/8) で近いということもあり親しくしてきました。 私は,国際開発工学専攻の初代教授として,今日に至っ ていますが、ここにおられる堀田先生や香川先生も発 足当時は仲間でした。今度の改革で国際開発工学専攻 は消えますので、国際開発工学専攻を名乗って定年を 迎える最後の教員となります。専攻の誕生が難産*だっ ただけに, 感慨深いものがあります。修士卒業後, 運 輸省の港湾技術研究所で14年間ほど港湾の耐久性と いう地味なことをやりました。大学でも地味なことを 手がけ、ここ5年ほどは海水でコンクリートを作る研 究をしてきました。業界や大先生方からの大反対にあ いながらも続け、最近ようやくクウェートなどで軌道 に乗ってきたところで定年というわけです。附属高校 の校長もしましたが、先ほど嬉しいニュースを耳にし ました。一般入試で附属高校から9名(特別入試10 名を含め計19名)も合格したというのです。何とか この日(定年)を迎えることが出来たことに感謝して います。

*(注)第2次ベビーブーマー世代を対象にした学生定員の臨時増募分(及びそれに伴う教員定員の増分)の固定化策を練ることがそもそもの始まりだった。(i)新学部を創り定員を確保する道は東京への一極集中を回避するために作られた「多極分散型国土形成促進法(1988)」に阻まれ、(ii)日本人学生を対照にした学科は国際系といえども定員管理に厳しい文科省が認めず、(iii)最終的に留学生を前面に押し出した国際開発工学科を3,4,5,6類に作ることで落ち着いたが、この間に何度も2~3日のうちに概算要求書を書き直すという離れ業をこなしたのが大即さんだった。理工学国際交流センターや3,4,5,6類までもが入り乱れ、まさしく難産そのものだった。自分が定年の時に一緒に姿を消すことになるとは、産婆役をつとめた大即さんは夢にも思わなかっただろう。



大坂 武男(物質電子化学専攻)

マスターとドクターで世話になり、その後 別の ところでポスドクと助手時代をすごして,1990 年に助教授として戻ってきました。専門は電気化 学です。電気化学は境界領域の学問ですので、フ レキシブルと言うのでしょうか、どのような研究 環境にでも適応して それなりに仕事が出来る研 究者が多いのですが、私も要領がいいという意味 ではその一人だったかもしれません。学生・スタッ フ・共同研究者に恵まれ、一緒にいろいろなテー マに取り組めたのは幸せでした。現在進行中の教 育改革に深く関わることなく定年を迎えられたこ とは、ある意味でラッキーでもあるのですが、去 る者として一つだけお願いしておきたいのは、組 織や仕組みの改革のみでなく、構成員(教員・学 生・事務職員) の意識改革も忘れないでほしいと 言うことです。全員が一丸となってはじめて、高 い目標が達成できると思うからです。近いうちに 実現して欲しいと願っています。



加藤 雅治 (材料物理科学専攻)

私も昭和44年(1969)入学で、ドクターを終わったあと、米国で5年間過ごし(ノースウエスタン大学 Postdoc、ミシガン州立大学 助教授)、本学に戻ってきました。定年に際し言いたいことのほとんどは東工大クロニクル(No.510, March 2016)に書いておきましたので読んで下さい。教育改革にインボルブされなかったのは、大坂先生がおっしゃたようにラッキーだったと思います。周りの方々(私たちより若い世代)は本当に大変だと思います。生みの苦しみかと思いますので、なるべく早くそういう時期を脱して、素晴らしい東工大になって欲しいと思います。



堀田 栄喜 (創造エネルギー専攻)

学生時代を含めて47年間の東工大生活でした。 電気系で育ち、1995年の創造エネルギー専攻の 改組・発足以来、21年間すずかけ台でプラズマ の研究をしてきました。教育改革に関連して、私 も一言申し上げたいと思います。次演者の香川先 生に引き込まれて、学生相談室に長く関わること になり、問題や悩みを抱える学生対応のみならず、 休日に親に呼び出されて面談したり、夜中に学生 同士の話し合いに同席したりと忘れがたい経験を しました。そんな経験から少し心配になるのは、 教育改革では「学生のために」と考えておられる と思いますが、「学生の立場に立って」という視 点も忘れないでいただきたいということです。も う一つお願いですが、email の生涯アドレスと、 定年後も文献検索など少しアカデミックな活動を 継続できるような仕組みを作っていただけないで しょうか。このサービスが付与されるならば、喜 んで東工大サポーター会員になります。これは定 年教員に共通な願いだと思います。



香川 利春 (メカノマイクロ工学専攻)

大学に奉職するなど考えてもいなかったものです から、昭和49年に機械系の制御工学科を卒業す ると、北辰電気に就職しました。プロセス制御 が好きだったので、化学工場の蒸留塔の計装を2 年やりました。卒研で世話になった竹中俊夫研究 室の助手(吉田松陰の兄の孫,大の酒好き)が急 逝したために、大学に呼び戻されましたが、松陰 神社の葬式では, 三木武夫や中曽根康弘などのそ うそうたる顔ぶれに驚きました。研究の傍ら、登 山やバイクにも並々ならぬ情熱を注ぎました。昼 休みなど時間に余裕があるときは40キロの荷物 を担いで中棟(大岡山南3号館)の階段を上り 下りし、汗だくになっていました。その後、国の 留学生10万人計画を受けて、留学生担当となり、 寮関係を中心に長く留学生の世話をすることにな り、松風学舎や梅が丘留学生会館に住み込んだ時 期もあります。大変なことも楽しいことも今日ま で続いて、4月以降も特命教授として週3日程は 留学生寮の手伝いをさせていただく予定です。



内川惠二(物理情報システム専攻)

皆さん早く終わられるので、考えてきたことの半 分程度にします。先ほどの香川先生とは立川高校 から同じ道を歩んでいます。博士課程終了後にカ ナダのヨーク大学でポスドクを2年やり、戻っ てきたのが 1982 年です。研究は東工大という環 境のお陰で順調に進んだと思います。教育にも そこそこ貢献できたと思っています。1989年か ら指導教員として学生を預かるようになりました が、ドクターは毎年1人の割合で計30人近くが 巣立っていきました。達成感が味わえて楽しかっ たのは、ペリパトス*計画です。これを私が発案 し,研究科長や図書館や事務の方々に相談すると 皆さん非常に協力的で、とんとん拍子に進みまし た。今では、ペリパトス文庫(2007.3~)・ペリ パトス Cinema (2008.12~)・ペリパトス Open Gallery (2013.3 ~ ; 女子美術大学の学生・卒業 生の作品を展示)が運用されていますが、教職員・ 学生はもとより近隣住民にも人気があります。教 員と事務の方々が一体になったからこそ短期間う ちに3つのペリパトス構想を実現できたのだと 思います。このことは、今回の教育改革において 三島学長も強調しておられます。一日も早く改革 が軌道に乗り、皆さんが一体感の美酒を味わわれ ることを願っています。

*(注)古代ギリシアの哲学者アリストテレスらが思索にふけった散歩道のイメージ。研究の杜(もり)における「憩いの空間」や「憩いのひととき」という意味も込められている。



德田 雄洋 (計算工学専攻)

一旦 日吉にある大学に通い始めたが思い直して、 1970年から本学に世話になっています。私が入 学した 1970 年は情報系にとっては画期的な年 で、日本の国立大学の5つに情報科学科・情報 工学科が設置されました。職員になってからは 情報科学科で4年,情報工学科・計算工学専攻 で28年間世話になりましたが、途中6年間甲府 にある大学に出ていました。今日は、1983年か ら84年にかけて米国のカーネギーメロン大学で 客員科学者をしていたときの話をしたいと思い ます。米国ではすべての計算機科学科を CSNET (Computer Science Network, 今日のインターネッ トに発展)で結ぶ試みがスタートしていましたが、 カーネギーメロン大学は高速環境を持つベスト3 の1つでした。ここでの経験をもとに、米国か ら日本へ"電子メール環境を整えるべきだ"とい う提案書*を送りました。これがきっかけとなり 東工大と東大、東工大と慶応大の間で電子メール のやり取りが実験的に開始されました。研究所で は、KDD とオランダの数学センターがつながり、 しばらくすると NTT の研究所が全米の CSNET に 参加することになりました。これが国内における 電子メールの始まりです。

*(注)「電子メイルを日本国内で容易に送受できる環境を実現し、研究者の意見交換を高速大量化する方法について」、情報処理 25 (7),717-719,1984。



花立 耕平(計算工学専攻)

阪大の基礎工にいた時に、東工大に呼ばれて、できてまもない情報工学科のハード系とソフトウエアの教育をすることになりました。以来35年になります。素晴らしい先生方に巡り合えて、いい仕事をさせてもらえたと感謝しています。途中で2度ほど死にかけましたが、なんとかこのように退職の日が迎えられて嬉しく思っています。



西原 明法 (人間行動システム専攻)

18歳の時からずっと大岡山にいます。1983年から84年にかけてチェコのプラハで客員研究員として暮らしましたが、当時は共産圏で生活は大変苦しいものでした。ソ連製のICはすぐ壊れるような代物が多く、技術的には得るものは少なかったのですが休暇と思って楽しんできました。これまでの教員生活でドクターを20数名出していますが、この内の6名が女子学生というのは、誇っていいのではないかと思っています。先ほど誕生日の話がありましたが、実は、あとで話される佐藤誠先生と私は、同じ生年月日(1951.2.26)で学科も同じ電子物理工学科でした。助手になるときにお互いの履歴書を見て気づいたわけですが、珍しいことがあるものですね。



木嶋 恭一(価値システム専攻)

学生時代を含めて40数年東工大に世話になり ましたが、40数年というのは長くて、この間に 予想外のことがたくさん起こりました。しかし, それらがすべていい方向に回って、今日 Happy retirement となりました。例えば、私がドクター の学生の時に、私の先生(松田武彦)が長津田に 移ることになり、「エエッ!長津田」と驚いたの ですが、ついて行ってみると悪くなかったですね。 経営工学科で8年間助手を務め、もうそろそろ と思った時に、 学生定員の臨時増に伴う教員ポス トの純増があり、このポストを使って助教授にし てもらいました。また8年もすると、そろそろ 助手が欲しいなと思うようになったわけですが, この時も運よく,新しく社会理工学研究科ができ, 教授になれました。経営工学から価値システムに 替わったわけですが、価値システム専攻には文系 的色彩もあり、文理融合の世界で幅を広げること ができました。ここで20年過ごしたところで、 ご奉公から解放されたというわけです。次に待っ ている新しい世界を楽しみにしています。運に恵 まれたといえばもう一つ、私たちの世代は現在進 行中の教育改革に巻き込まれなくて、こういうと 利己的で非常に申しわけないですが、大変助かっ たと思っています。サバティカルも取らせてもら い、1年近くをかけて3か国(インドネシア・イ ギリス・フィンランド) を回らせてもらいました。 運に恵まれながら東工大で仕事ができたことに感 謝するとともに、後輩の先生方のより一層の発 展を期待しています。



武藤 滋夫(社会工学専攻)

私も昭和44年(1969)に入学したのですが、 それ以来 東工大に入ったり出たりを繰り返しま した。東工大の中にいたのは26年間で、あと 21年間は外にいました。出入りの度にカルチャー ショックを受けましたが、一番印象に残っている のは、1998年に東工大に戻って来たときです。 何に驚いたかというと、意思決定の速さです。そ の前は16年間に渡って経済学部に籍を置いてい たのですが、そこで1年間かかる決定が東工大 では1ヶ月ですむというのは驚きでした。これ は東工大の大きなアドバンテージの1つだと思 います。今回の教育改革も東工大だからこそ、こ こまでできた、総合大学では絶対に無理だったと 思います。それだけに是非とも成功させ、三島学 長がおっしゃるように世界の Top 10 入りを果た してほしいと思います。



佐藤 誠 (精密工学研究所知能化工学部門)

すでに西原先生に紹介いただいた形になりまし たが、1951年2月26日生まれで、昭和44年 入学です。1986年にすずかけ台に移り、30年 間 精研にお世話になりました。私にとっては 研 究所はピッタリで、「大いに学び 大いに遊べ」を モットーに、当時研究所におられた三島学長や次 演者の北條先生らとテニスや野球に興じたことが 思い出されます。紛争の時の入学で、授業がまと もにできなかったために、入学早々、新入生は いろいろな先生方に預けられる寺小屋方式でし た。私は精研の佐藤拓宋先生に預けられましたの で、大学に入って最初に足を踏み入れた建物が当 時石川台地区にあった精研でした。そして今定年 を迎えて出ていくのも精密工学研究所というわけ で、47年間精研に世話になりました。先日旧建 物が懐かしくなって訪ねたら、入口のところに旧 字体で「石川臺二号館」と書かれた看板がかかっ ていたので、これは歴史的なものだと思い、クロ ニクル (No. 510, March 2016) に写真入りでそ の旨を書きました。ところが、この話を西原先生 にしたところ、「そんなに古いものではない。精 研がすずかけ台に移転した後に、教育工学開発セ ンターが入居したが、その際に、森政弘先生が自 分で彫られた看板だよ」というので、今日、この 会の前に確かめてきました。西原先生のおっしゃ るとおりで、看板の裏には森先生が1986年8月 と記されていました。丁度 私たちが すずかけ台 に移った年です。建物がなくなっても看板は保存 して置いて欲しいと思います。



北條春夫(精密工学研究所精機デバイス部門)

昭和44年(1969)の入学以来,ずっと東工大 ですが、一つだけ自慢できることがあります: M2の9月にすずかけ台に移転しましたので、す ずかけ台 在住 40年と6カ月という記録保持者 です。以下、思い出と期待を述べさせていただき ます。入学した頃の大岡山キャンパスは、正門前 にテニスコートが広がり,時計台が見渡せました。 オープンで広々とした感じで、これだけでも「い い大学に入ったものだ」としみじみ思いました。 それに東大に入試がなかった年ですので、頭がい いと思って貰えたのも悪い気がしませんでした。 さてお願いですが、Top 10を目指すにあたって、 東工大オリジナル・日本オリジナルな味付けを忘 れないで欲しいと思います。西洋の後追いで Top 10というのは感心しませんし、徒労に帰すかも 知れません。私はグライダー部の部長をしていま した。新入部員が毎年2~3名という小さな部 でしたが、部員の成長ぶりには目を見張るものが ありました。大学における課外活動の意義は私が 強調するまでもありませんが、是非 力強い支援 を継続して欲しいと思います。長い教員生活を通 して、事務の方々のサポートに感謝する場面が多 かったことも忘れられません。



小澤 正基(原子炉工学研究所附属原子力国際共同研究センター)

今も専攻長として飛び回っていますので、退任の 実感はまだありません。山梨大学で燃料電池の研 究をした後、核燃料の再処理プロジェクト(東海 再処理工場)が立ち上がる時に,動燃(動力炉・ 核燃料開発事業団) に勤め始め、プルトニウムの 分離に35年間取り組みました。東工大に赴任し たのは2011年1月1日で、2か月後にあの3.11 (東日本大震災)ですから、不謹慎かもしれませ んが、運がよかったと思います。東工大での最初 の年はリーディング大学院 U-ATOM (グローバ ル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育 院)の立上げ、2年目には U-ATOM の副道場主、 3年目は原子核工学専攻の副専攻長、そして4& 5年目は専攻長というわけで目の回るような忙し さでしたが、長い研究職の後に東工大で5年間 の教育職を経験できたのは幸せでした。4月から はフリーターですが、JST の「原子力システム研 究開発事業」のプログラムオフィサーや内閣府の ImPACT(革新的研究開発推進プログラム)のプ ログラムマネージャー補佐として東工大にもお邪 魔することになるかと思います。



半那 純一 (像情報工学研究所像情報システム部門)

類別入試が始まった1970年に3類に入学しまし たが、いろいろ考えるところがあって、もう少し 基礎的な化学を勉強したいと思うようになり、理 学部に移りました。卒業研究は向山光昭研究室に 所属したのですが、修士の時に向山先生が東大専 任となられたために、博士課程は東大に進みまし た。ところが1年もしないうちに、像情報の井 上英一先生の招きで、すずかけ台に着任すること になりました。以来39年になります。向山先生 には「おいお前、恩も返さずに出るのか」といわ れましたが、大きな目で見て世の中に恩を返そう と光伝導性液晶材料の開発などオリジナリティー のある仕事を心掛けてきました。時間が経つのは 速く、志半ばで今日を迎えましたが、この間分 野の異なる方々と接することができたのは大変刺 激的でした。先週、最終講義を終え、今日こうし て大学主催の追コンをして頂きましたので、しっ かり後始末をして出ていこうと思います。



辰巳 敬(前研究担当 理事·副学長)

昨年の3月末に要職を辞任するという勝手なふ るまいをしてしまいましたが、東工大には資源研 時代を含め10年在職しました。お話したいこと はいっぱいあるのですが、時間の都合もありま すので今何をしているかを申し上げたいと思いま す。昨年の4月から、(独)製品評価技術基盤機 構*の舵取りをしています。産総研などと違って 研究業務は少ないのですが、(i) バイオテクノロ ジー部門が世界的にも有数の微生物資源を持って いますので、バイオ系の先生方との共同研究を通 して、これを生かす道を探るとともに、(ii) 製品 安全部門関連では、家電量販店等に寄せられてい る苦情等の Big data 解析を通して、事故の未然 防止に役立てるべく戦略を練っています。東工大 にはこれらの分野の専門家が多いので、協力を仰 ぎたいと思っています。

*(注)略称 NITE: 経産省傘下の独立行政法人で、バイオテクノロジー分野・化学物質管理分野・適合性認定分野・製品安全分野において、リスクの低減を図り、国民生活の安全と持続的な経済発展の基盤を支える役割を担っている。予算規模は約70億円。



大谷清(広報&財務担当理事·副学長)

はからずも退職教員に加えて頂き、記念品と花束 まで頂き、有難うございます。理事・副学長は3 年半務めさせていただきましたが、その前に材料 系 GCOE の特任教授として3年半、「プロジェク トマネージング特論第一」を担当していました。 毎週土曜日の午後に約10名の大学院生を相手に 膝づめの議論をしたわけですが、私はもともと新 聞記者ですので、記者時代のネットワークを使っ て第一線の経営者をゲストスピーカーとして招聘 し、(i) 100年に一度といわれる世界的経済危機 は企業経営に何を教えているのか、(ii) この危 機を潜り抜け、新しい市場・時代を創造する経営 とは何か、(iii) 経営者・リーダーにはどんな役 割が求められているのか など切実な課題を毎回, ゲストとの対話の中から探りました。合わせて7 年間東工大にお世話になったことになります。学 生と一緒の土曜日は大変楽しかったのですが、財 務担当理事になってみたら、こんなに苦しい仕事 があるのかと思うぐらい綱渡りの予算で、皆さん にも大変ご迷惑をお掛けしたかと思います。東工 大は恵まれていますので、持てるあらゆる資源を 活用して Top 10 入りを実現して欲しいと願って います。もう一言:私は昭和41年(1966)入 学の東大の文Iです。世田谷区太子堂に下宿しま した (賄い付き, 8畳, 2人で12,000円)。 隣の部屋にい たのが2年先輩の大隅良典さん (現東工大栄誉教授, 文化功労者)でした。来年あたりノーベル賞を取る のではないかと期待しています。私は郷里である 姫路の観光大使をしていますが、4月からは石見 市長(本学で博士号を取得し助手まで勤めた経験あり)と力を 合わせて, 姫路城をグローバルに売り込む仕事を したいと思っています。